



# 別院・センター完成

20日に入仏・竣工式



教区新報



YOG

浄土真宗本願寺派 兵庫教区教務所  
〒650 神戸市中央区下山手通 8 丁目 1 番 1 号  
(本願寺神戸別院内)  
電話 神戸(078)341-5949(代)  
〔編集〕教区基推委広報部

1995. 9. 93号

発行所

本願寺神戸別院・兵庫教区教化センターが、平成五年十二月着工以来、一年十カ月及び工事を終え、いよいよ完成の運びとなり、諸々の検査を終え、九月十四日に引渡、二十日には入仏法要と竣工式が開催されることになった。

神戸市民にはモダン寺として親しまれてきたお寺でもあり、八月二十六日付神戸新聞夕刊にも「ニューモダン寺お目見え」と題して以前の建物と今回新築された建物の写真を並べて、従来のデザインをそのまま生かした新生モダン寺、被災地に復興の息吹を感じさせていると紹介された。

大震災で工事は延期したもの、建物には被害がなく、震災以降竣工する初めての大寺院となる。

教区たより		9・10月	
14日(木)	別院・センター引渡		
15日(金)~19日(火)	事務所移転作業		
17日(日)	仏社ブロック別研修会(阪神・神戸) 阪神北組源照寺		
19日(火)	近畿地区仏教婦人会大会	京都	
20日(水)	別院・センター入仏法要	11時	
	別院・センター竣工式	2時	
22日(金)~23日(土)	別院秋季彼岸会	久堀弘義師	1時半
24日(日)	別院永代経開闢法要		1時半
26日(火)	賦課制度に関する意見を聞く会	本山	
27日(水)~28日(木)	寺族青年野球大会		佐川急便守山球場
29日(金)	第2回全戦没者追悼法要実行委員会		10時半
30日(土)~10月2日(月)	第29回解放研究集会		京都
2日(月)	同兵宗連役員会		1時半
3日(火)	連研のための研究会		10時半
6日(金)	寺婦連盟研修会		センターホール
7日(土)	第一土曜仏教講座	上山大峻師	1時半
11日(水)~13日(金)	門徒総代ブロック別研修会		センターホール
14日(土)	別院永代経開闢法要		1時半
14日(土)~16日(月)	仏婦連盟若婦人中央研修会		本山
15日(日)~16日(月)	別院常例法座	藤山達郎師	1時半
18日(水)~20日(金)	仏婦ブロック別研修会		センターホール



完成間近の建物全景 95. 8. 31 撮影

**建設工事進捗状況**

本願寺神戸別院改築・兵庫教区教化センター設立  
設工の進捗状況をお知らせ致しましたこの欄も今回が最後となりました。

**現況**  
引渡まで間近になり各工事も仕上げ段階に入り、前庭部分の整備が行われ、親鸞聖人像やポールなどが設置され、また、四階・五階の納骨壇もすべて設置され、内装や各備品などが搬入されている。

予定  
9/6 工事終了  
7/9日 建物検査  
14日 建物引渡  
15日/19日 引越し移転作業  
20日 入仏法要・竣工式  
建設費志進納総額 十七億四千三百六十六万六千六百六十六円(76%)  
(95年8月31日現在)

**敬 弔**

○七八(三四一)五九四九

別院・教務所の電話番号が二十一日より次の通り変更されます。

【電話】  
○七八(三四一)五九四九

**竣工後の電話番号は**  
○七八(三四一)五九四九

敬弔  
富賀見としさん(ふかみ) 天児芳慧師(あまこ・ほ) 月二十三日、浄泉寺で。「真  
・とし」新宮組明専寺前坊 職)八月三十日、八十五才 操院釋尼智信)  
守)八月九日、八十五才で 往生。葬儀は九月一日、 職)八月三十日、六十二才  
往生。葬儀は八月十一日、 正行寺で。「平生院釋芳慧」 職)八月三十日、六十才  
明専寺で。「願泉院釋尼静 昭和十一年より平成四年ま 職)八月三十日、六十才  
由。 昭和十一年より平成四年ま 昭和十一年より平成四年ま 職)八月三十日、六十才  
多村宗峰師(たむら・ 間、昭和四十四年から組長 職)八月三十日、六十才  
しゅうほう)神戸西組法泉 を一期務めた。 職)八月三十日、六十才  
寺住職)八月十六日、五十 太田道雄師(おおた・み 職)八月三十日、六十才  
三才で往生。葬儀は八月十 職)八月三十日、六十才 職)八月三十日、六十才  
八日、法泉寺で。「光明院 職)八月三十日、六十才 職)八月三十日、六十才  
釋宗峰」。平成七年七月よ 職)八月三十日、六十才 職)八月三十日、六十才  
り住職在職一カ月余。 職)八月三十日、六十才 職)八月三十日、六十才  
小村啓子さん(こむら・ 職)八月三十日、六十才 職)八月三十日、六十才  
けい)姫路東組宝量寺坊 職)八月三十日、六十才 職)八月三十日、六十才  
守)八月十九日、四十一才 職)八月三十日、六十才 職)八月三十日、六十才  
で往生。葬儀は八月二十一 職)八月三十日、六十才 職)八月三十日、六十才  
日、宝量寺で。「啓秀院釋 職)八月三十日、六十才 職)八月三十日、六十才  
尼香華」。 職)八月三十日、六十才 職)八月三十日、六十才  
大鷹千代子さん(おおた 職)八月三十日、六十才 職)八月三十日、六十才  
か・ちよこ)赤穂北組浄泉 職)八月三十日、六十才 職)八月三十日、六十才  
寺前坊守)八月二十一日、 職)八月三十日、六十才 職)八月三十日、六十才  
八十四才で往生。葬儀は八 職)八月三十日、六十才 職)八月三十日、六十才

# 納骨所特別勸励期間 12月31日まで

建設推進  
常任委

本願寺神戸別院・兵庫教区教化センターの竣工が近づいた八月。二十一日は財務部会、二十三日は三役会、二十五日は総務部会・常任委員会、三十日は広報部会と会議が続き九月一日には管理運営委員会も開催された。

- 常任委員会で協議された事項を報告します。
1. 建設工事完成に伴う今後の予定について。
  - ①建設建物立会い検査を九月八日午前十時より行う。立会い者は総務部会員・建築部会員。
  - ②建設建物引渡は九月十四日午前十一時より行う。立会い者は委員長・副委員長。
  - ③入仏法要・竣工式は九月二十日午前十一時から入仏法要、午後二時から竣工式、午後三時から建物見学、午後四時から祝賀会。案内については、入仏法要は神戸別院役員、建設推進常任委員会委員。竣工式は本山関係（総長・総務他）建設推進推進委員会委員全員、旧建設推進委員会委員、教区本山山参与、参与発起人、多額懇志進納者、工事関係企業、近畿五教区（教務所長・教区会議長・組長代表者）、歴代輪番教務所長、別院仏婦役員、自治会世話役、建設に伴う関係者、関係官庁、報道関係の約四百五十人に案内される。
  - ④落慶法要については平成八年春頃を希望するが、ご門主の日程に合わせて落慶法要実行委員会（仮称）を作り、規模・日程などについては後日協議する。
  2. 建設整備復興総合計画の今後の措置について。
  - ①計画の施行期間は今年度中（平成八年三月末日まで）
  - ②懇志未進納寺院については今後進納をお願いする。
  - ③院号扱いについては、本山に準じて本年十月一日より変更実施し、取扱事務は建設整備復興総合計画の期間内とする。
  - ④納骨所については、使用許可は神戸市の許可の決定を待って申込者に個別に案内する。（八月九日付経営許可済）また、特別勸励期間終了日は平成七年十二月三十一日までとする。但し、部会にて協議する。

## 震災の別院盆会に 庭先で育てた花

穴栗組仏婦からお供え

穴栗組願寿寺と正源寺の仏婦会の方々が、この阪神・淡路大震災で被災された方々に何か奉仕することができないかと話し合い、お花をお供えできればと、会員の庭先で花を育てて準備をして来られた。

これを願寿寺住職の藤井慧乗師に相談され、別院の孟蘭盆会に参拝された方にお持ち帰り頂いたらと勧められ、八月七日に別院参拝を兼ねて持参された。

当日は、平川恵美子さんをはじめ九人がバケツ十五杯分もの花をお供えし参拝された。また、別院本堂には震災で亡くなった方の遺骨が安置してあるのを見られ、その前で手紙を話しかけるように読まれていた。



その手紙の一節をご紹介します。「私たちは穴栗郡安富町末広仏教婦人部でございます。皆様、あの恐ろしく悲しい大震災から初めてのお盆がきましたね。当時より、私たちの合言葉は、お盆には私たちが作ったお花を持ち、お参りさせていただきます。どうぞごさいました。その大きな目標を持ち、育てた花が開きました。」

翌日の別院孟蘭盆会には六十人を越す方が参拝され、法要・布教の後、お供えされた花をそれぞれ喜んで持ち帰った。

また、この花は神戸東組光円寺内の六甲庵（ポランティア拠点）にも運ばれ近隣の方にも配られた。



私はいつの頃からクラシック音楽鑑賞を趣味とするようになった。ベートーヴェンの格言に「苦患の後の歓び」という言葉がある。彼は晩年に聴力を失い、その過酷な状態の中である『第九交響曲合唱付』を作曲したがその音楽を耳にすることはできなかった。その強靱な意志と孤高とうつる気高さに心酔していた。私は三十七歳で得度し運まきながら僧籍に入った。僧衣の生活が始まると同時に、亡母の晩年を知らせて下さる多くの人々と出逢うことができた。母は数年間、全身リウマチを患い身動きできないまま、三十六歳で亡くなっている。その母が最晩年、日曜学校を催していたと聞かされて驚いた。里の寺の子供数名が日曜毎に母の枕元に集い、正信偈、仏讃歌、法話と形どりのことながら懸命に勤めていた母を知って私は「苦患の中の慶び」の境界を知られると同時に「信心の社会性」の核心に触れた思いがするのである。念仏者の身業説法は苦を超越する。（窪田正憲）

# 11月16・17日に50年法要

## HO日誌

8月3日～5日 ホームステイ引受。毎年海外からのホームステイ協力を本山組織教化部から依頼され、今年も四十三人中六人を兵庫で。ホスト家庭を引受けていただいたのは別所忠晃師（神戸湊組教覚寺）池谷正信師（神戸西組佛心寺）多田満之師（赤穂北組西光寺）の三家庭。4日 基推委企画常任委員会を別院で。九折師裁判支援について。全戦没者五十年法要について。法要は十一月十六日と十七日の二日間とし会場を別院で。また、実行委員会を九月一日に開催することが決まった。近畿地区教務所長協議会並びに新旧教務所長懇談会が京都で。5日 第一土曜仏教講座を別院で。講師は鍋島直樹師（龍谷大学講師・神戸中組真覚寺）テーマは「震災と佛の救い」。◆教区仏婦連盟が西神中央仮設住宅へ物資を配布。土基教務所長も同行。5日 6日 全国真宗青年の集いが京都本願寺会館で。教区

より二十四人が参加。6日 永代経開闢法要を大谷本願寺で。7日 ビハラ兵庫役員会を別院で。都市開教推進部会を別院で。保育連盟研修委員会を姫路で。穴栗組願寿寺と正源寺の仏婦会員が庭先で育てた花を別院へ持参し参拝（二面に別記）。7日～9日 岐阜教区招待サマースクール。十九人が参加。8日 得度考査を別院で。孟蘭盆会を別院で。講師は足利孝之師（阪神東組安養寺）。◆センター研修ホールのご本尊寄贈者の福谷やすみさんと土基教務所長が京都岡崎の江里仏師のもとに見学。10日 門推常任幹事会を別院で。11日 15日 別院盆参り。16日 20日 別院・教務所職員夏季休暇。17日 近畿仏婦大会打合せ会が京都で。18日 阪神北組全戦没者五十年法要を光円寺で。19日 十ふじの里夏祭り。近くの仮設住宅の人も楽しんだ。21日 建設推進委員会財務部会を別院で。得度考査を別院で。23日 建設推進委員会三役会を別院で。24日 第三回園長・主任研修懇

談会を姫路キャッスルホテルで。平和を願う赤穂南組の集い。終戦五十周年全戦没者総追悼法要。が永忠寺で。得度考査を別院で。25日 建設推進総務部会を別院で。午後から建設推進常任委員会（二面に別記）。◆近畿仏婦大会第二回打合せ会が京都で。サマースクール反省会を姫路中組法性寺で。26日 建設・財務部会委員が養父組の組会へ出向し勸募。27日 30日 九州ブロック招待サマースクール。五十七人が参加。28日 研修指導部会を別院で。29日 仏婦委員会総会を別院で。青年僧侶の役員会を別院で。29日 30日 近畿ブロック講師研修会が奈良ロイヤルホテルで。30日 建設推進広報部会を別院で。本願寺神戸別院・兵庫教区教化センター竣工と納骨所の案内を九月十五日に新聞折り込みを実施することや文案を決定。建設・財務部会委員が姫路西組へ勸募。31日 得度考査を別院で。建設・財務部会委員が揖電東組へ勸募。

9月1日 兵庫教区全戦没者五十年追悼法要実行委員会を別院で。委員長は土基教務所長、副委員長は山崎一朗師・久堀弘義師・田中法嗣師・山本宣昭師。法要名は「兵庫教区全戦没者追悼法要」とする。テーマは「平和への願い」と決まりその他協議し、九月二十八日に第二回実行委員会をもつこととなった。◆交通事故で亡くなられた播磨東組圓福寺住職・太田道雄師と衆徒・太田佳典師の葬儀に土基教務所長が参列、達書伝達。◆第一回本願寺神戸別院・兵庫教区教化センター管理運営委員会を別院で。会長は土基謙教輪番、委員長に田中法嗣師、副委員長に山本宣昭師。2日 基幹運動本部事務局より一日付けで総長名においてフランス共和国ジャック・シラク大統領あて、ポリネシア・ムルロア環境における核実験の実施に対する中止の要望書を送付したことの通知がある。文面は「私たち仏教徒はあらゆる『いのち』の尊厳を侵す核実験に反対します。このたび貴フランス政府が再開されるポリネシア・ムルロア環境における核実験の実施を即刻中止されますよう強く要望いたします」であった。

先月号でもお知らせし、また、各ご寺院宛ハガキにてご通知いたしました通り、神戸別院建設期間中大谷本願寺で修行いたしました永代経開闢法要は、神戸別院が九月二十日に竣工の運びとなりましたので別院で修行いたします。なお、九月の二十四日、以降は毎月十四日午後一時三十分

掛竜西組の  
教区会議員かわる

掛竜西組選出副門徒教区会議員古寺瀧男氏（浄栄寺）死亡により、平成七年八月二十日、補欠選挙が施行され東剛雄氏（浄教寺門徒）が選出された。

## 災害対策現地本部に 「復興支援活動者情報センター」を設置

災害対策現地本部ではこのほど、各復興支援団体（ボランティア）と数次に亘り協議を重ねた結果、復興支援者の連絡・調整をはかるため「復興支援活動者情報センター」を設置することになった。

これは、支援活動を長期的な視野をもった上で、本派関係の活動団体を登録し、代表者の連絡会などを持ち情報や活動の連絡・調整をはかり、ボランティア活動を一層総合的に推進するために設けられた。現地本部では全国の各教務所へ「復

興支援団体調査票」を送付し登録を呼びかけている。また、専従コーディネーターに、震災当初より支援活動に従事し、行政及び各支援団体との連携もとれている副高朗（そえ・こうろう）師（鹿児島教区那答院組法城寺）を委嘱した。

また、臨時勤務職員として八月七日付けで井澤実（いざわ・みのる）氏を採用した。同氏は今年三月、龍谷大学文学研究科仏教学専攻修士課程を卒業、穴栗組明願寺門徒。